

強いチーム創りの着眼点

新入社員の皆さんへ

「新入社員の皆さん、この度は晴れてのご入社、誠にありがとうございます。お互いが選び選ばれて入社した縁を大切に、社会人として価値ある人生を歩んでいってください」。

今月号と次号では、新入社員の皆さんへ向けたメッセージを贈りたいと思います。このメッセージを通じて、強いチームを創るポイントを押さえていただければという思いを込めています。（ということで、文体を「だである」体から、「ですます」体に変更しました）

①仕事の基本は、本質をつかむこと

全ての仕事に共通する基本は、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つに集約されます。上司やお客様の話を聞くのは、簡単ではありません。話していることの本質を聞き取ることが目的だからです。同様に、「読む」「話す」「書く」の全ての行為は、本質に結びつけて実行しなければならないと心得てください。

「言われた通りにやったんだけど」「間違いなく報告したのになぁ」というような感情が湧いたら、それは、仕事の本質を理解できていない自分を問題視してください。「言われた通りにやったのに上手くいかなかったのは、言われたことへの理解が正しくなかった」と考えることです。そうすると、上司やお客様からもっと詳しく話を聞こうという意識が芽生えます。こういう人間は成長します。

自分は報告したと認識していても、報告内容がいい加減だったり、タイミングがずれることで大問題につながります。そんな緊張感と責任感を持って、報告をしなければなりません。

②頭で分かったことと、できることには雲泥の差がある

人間は頭で分かったことを、できることと勘違いしてしまう動物です。水泳の北島選手に平泳ぎの腕の使い方を講義してもらっても、その通りに腕を動かすには、筋力トレーニングや柔軟を加えて水泳トレーニングを重ねなければできるようになりません。こんな当り前なことを、仕事では忘れてしまう人が沢山います。

例えば、「報告は、結論から伝えて5W1Hを基に簡潔にするように」と教えてもらおうと「5W1H」の項目を覚えてただけで、できるようになった気になってしまうものです。

トヨタは、5回のWHYを問いかけることで仕事の品質を高めて世界一の自動車会社になったと言われていています。真剣に5回のWHYを実施してみると、簡単ではないことは誰もが理解します。

教えてもらったこと、気づいたこと、発見したことは、分かったでは終わらせず、それをできるようになるまで取り組むことで、仕事の技能は磨かれるのです。

③給与は何故もらえるのか

「働かざる者食うべからず」と言われています。給与は、働いたことによる対価です。勘違いしてはいけないのは、働くとは一日8時間勤務することではありません。給与はお金で支払われます。このお金はどこから入ってくるのでしょうか。そうです。お客様からいただいています。働くとは、お客様からお金を頂戴できる役務を提供することなのです。次号では、「給与は何故もらえるのか」について、もう少し掘り下げて解説します。

株式会社アッシュ・マネジメント・コンサルティング
代表パートナー 平堀 剛